

195.主はかれら（の祈り）を聞き入れられ、（仰せられた）。「本当にわれは、あなたがたの誰の働いた働きもむだにしないであろう。男でも女でも、あなたがたは栗いに同士である。それで移住した者、故郷から追放された者、わが道のために迫害され、また奮戦して殺害された者こは、われはきつとかれらから凡ての罪業を消滅して、川が下を流れる楽園に入らせよう。」これはアッラーの御許からの報奨である。アッラーの御許にこそ、最も優れた報奨がある。

196.あなたは、不信者が地上をあちこち歩き回っているのに感わされてはならない。

197.これは片時の歓楽である、やがて地獄がかれらの住まいとなろう。それは悪い臥床である。

198.だが主を畏れる者には、川が下を流れる楽園があり、かれらは永遠にその中に住むであろう。これはアッラーの御許からの歓待である。正しき者のため、アッラーの御許に（準備して）あるものは最も優れている。

199.啓典の民の中にも、アッラーを信仰し、あなたがたに下されたものとかれらに下されたものを信じて、アッラーに謙虚に仕え、僅かな代価でアッラーの啓示を売ったりしない者がいる。これらの者には、アッラーの御許で報奨があろう。本当にアッラーは清算に迅速であられる。

200.あなたがた信仰する者よ、耐え忍びなさい。忍耐に極めて強く、栗いに堅固でありなさい。そしてアッラーを畏れなさい。そうすればあなたがたは成功するであろう。

SURA 4.婦人章 [アン・ニサーア]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.人びとよ、あなたがたの主を畏れなさい。かれはひとつの魂からあなたがたを創り、またその魂から配偶者を創り、兩人から、無数の男と女を増やし広められた方であられる。あなたがたはアッラーを畏れなさい。かれの御名においてお栗いに頼・ごとをする御方であられる。また近親の絆を（尊重しなさい）。本当にアッラーはあなたがたを絶えず見守られる。

2.孤児たちの財産を返還しなさい。（自分の）悪いものを、（かれらの）良いものと替えてはならない。またかれらの財産をわがものにしてはならない。誠にそれは大罪である。

3.あなたがたがもし孤児に対し、公正にしてやれそうにもないならば、あなたがたがよいと思う2人、3人または4人の女を嬰れ。だが公平にしてやれそうにもないならば、只1人だけ（嬰るか）、またはあなたがたの右手が所有する者（奴隷の女）で我授しておきなさい。このことは不公正を避けるため、もつとも公正である。

4.そして（結婚にさいしては）女にマハルを贈り物として与えなさい。だがかの女らが自らその一部を戻すことを願うならば、喜んでこれを納めなさい。

5.アッラーから保管を委託された財産を、精神薄弱者に渡してはならない。そして、かれらに衣食を与え、懇切に言葉優しく話しかけなさい。

6.結婚年齢に達するまでは、孤児を試しなさい。もし、立派な分別があると認められたならば、その財産をかれらに渡しなさい。かれら（孤児）が成年になるまで、浪費したり、急いで消費し

てはならない。（後見者が）金持ならば抑制してこれに手を触れてはならない。また貧乏ならば、（後見のために）適切に使いなさい。孤児に返還するさいは、かれらのために証人を立てなさい。アッラーは清算者として万全であられる。

7.男は両親および近親の遺産の一部を得、女もまた両親及び近親の遺産の一部を得る。そのさい遺産の多少を問わず定められたように配分しなさい。

8.遺産の分配にさいし、もし遠い親族や孤児や貧者が、その場に居合わせた時は、それ（遺産）からかれらにも与え、懇切に言葉優しく話しかけなさい。

9.自分のあとにひ弱い子女を残し、それらの身を案じる者はよく心配して置け。だからアッラーを畏れ、誠意ある言葉で語りなさい。

10.不当に孤児の財産を食い減らす者は、本当に腹の中に火を食らう者。かれらはやがて烈火に焼かれるであろう。

11.アッラーはあなたがたの子女に就いてこう命じられる。男児には、女児の2人分と同額。もし女児の・2人以上のときは遺産の3分の2を受ける。もし女児一人の時は、2分の1を受ける。またその両親は、かれに遺児のある場合、それぞれ遺産の6分の1を受ける。もし遺児がなく、両親がその相続者である場合は、母親はその3分の1を受ける。またもしかれに兄弟がある場合は、母親は6分の1を受ける。（いずれの場合も）その遺言したものと、債務を清算した残り（の分配）である。あなたがたは自分の父母と自分の子女との、どちらがあなたがたにとって、より益があるかを知らない。（これは）アッラーの掟である。本当にアッラーは全知にして英明であられる。

12.妻が遺したものは、かの女らに子がいない場合、半分をあなたがたが受ける。もし子がある場合は、かの女らの遺言と債務を果たした後、あなたはかの女の残したものの、4分の1を受ける。またあなたがたが遺すものは、あなたがたに子がいない場合は妻はあなたの遺産の4分の1を受ける。もしあなたがたに子がある場合は、遺言と債務を果たした後、かの女たちはあなたが残したものの8分の1を受ける。もし遺産を遺す男または女に、父母も子女もなく、兄弟または姉妹一人だけある場合は、その者が遺産の6分の1を受ける。兄弟姉妹が多い場合、かれらは全員で3分の1の分け前を得る。これは、遺言と債務を果たした後のことで、（誰にも）損害を及ぼすことはない。（これは）アッラーからの定めである。アッラーは全知にして大度量であられる。

13.これらは、アッラーの定められた決まりである。アッラーとその使徒に服従する者は、川が下を流れる楽園に入り、永遠にその中に住むであろう。それは至上の幸福の成就である。

14.だがアッラーとその使徒に従わず、かれの定めを背く者は、業火に入り、永遠にその中に住む。かれは恥ずべき懲罰を受けるであろう。

15.あなたがたの女たちの中、不貞を働いた者には、あなたがたの中から、かの女らに対し4名の証人を立てなさい。かれらがもしこれを証言したならば、かの女らを家の中に監禁しなさい。死がかの女らを連れ去るか、アッラーがかの女らのため、（別の）道を決められるまで。

16.あなたがたの中2人で罪を犯した者は（2人とも）処罰しなさい。だが、その罪を悔いて身を修めるならば、そのままに放って置け。本当にアッラーは、度々御赦しなされる方、慈悲深い方であられる。

17.アッラーが悔悟を御赦しなされるのは、知らずに悪事を犯したが、直ぐ後で、悔い改める者だけである。アッラーは、これらの者を御赦しになられる。アッラーは全知にして英明な御方であられる。

18.だが、死に臨むまで悪行を続け、その時になって「今悔い改めます。」と言う者、また不信心のまま死ぬ者の悔悟は御赦しになれない。かれらのために、われは痛苦の懲罰を準備してある。

19.あなたがた信仰する者よ、当人の意志に反して、女を相続してはならない。あなたがたが、かの女らに与えたマハルの一部を取り戻すために、かの女らを手荒に扱ってはならない。明らかに不貞の事実があれば別である。出来るだけ仲良く、かの女らと暮しなさい。あなたがたが、かの女らを嫌っても（忍耐しなさい）。そのうち（嫌っている点）にアッラーからよいことを授かるであろう。

20.あなたがたが一人の妻の代りに、他と替えようとする時は、仮令かの女に（如何に）巨額を与えていても、その中から何も取り戻してはならない。あなたがたは、ありもしない中傷という明白な罪を犯して、これを取り戻そうとするのか。

21.あなたがたは、どうしてそれを取り戻すことが出来ようか。既に粟いに深い関係もあり、かの女らは堅い誓約をあなたがたから得ているのである。

22.あなたがたの父が結婚したことのある女と、結婚してはならない。過ぎ去った昔のことは問わないが。それは、恥ずべき憎むべきこと。忌まわしい道である。

23.あなたがたに禁じられている（結婚）は、あなたがたの母、女兒、姉妹、父方のおば、母方のおば、兄弟の女兒、姉妹の女兒、授乳した乳母、同乳の姉妹、妻の母、あなたがたが関係している妻の生んだ養育中の養女、あなたがたがその妻と、未だ関係していないならばその連れ子を妻にしても罪はない。およびあなたがたの生んだ息子の妻、また同時に二人の姉妹を娶ること（も禁じられる）。過ぎ去った昔のことは問わないが。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

24.またあなたがたに（禁じられている者は）、夫のある女である。ただしあなたがたの右手の所有する者（奴隷の女）は別である。これはあなたがたに対するアッラーの掟である。これら以外は、すべてあなたがたに合法であるから、あなたがたの財資をもって、（良縁を）探し求め、面目を恥かしめず、私通（のよう）でなく（結婚しなさい）。それでかの女らと、交わった者は、定められたマハルを与えなさい。だがマハルが定められた後、相栗の合意の上なら、（変更しても）あなたがたに罪はない。本当にアッラーは全知にして英明な御方であられる。

25.あなたがたの中、信者の自由な女を娶る資力のない者は、右手の所有する信仰ある女を娶れ。アッラーはあなたがたの信仰を熟知される。あなたがたは、（皆）一人の者から次々に（生まれた者で）ある。だから女性の家族の承諾を得て、かの女らと結婚しなさい。そして妥当な婚資

を、かの女らに贈れ。かの女らが慎ましく、淫らでなく、また隠した友もないならば。かの女らが妻となった後に、破廉恥な行いがあれば、懲罰は自由な女に科せられる半分である。これはあなたがたの中、罪を犯すことを恐れる者への定めである。だが欲を押えるならば、あなたがたにとり更によい。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

26.アッラーはあなたがたに（掟を）解明して、あなたがた以前の者の慣行に導こうとなされ、あなたがたの悔悟を許すよう望まれる。アッラーは全知にして英明であられる。

27.アッラーは、あなたに対し悔悟を赦そうと望まれる。だが自分の欲望に従う者たちには、片寄った上にも、大きく片寄り去るよう望まれる。

28.（また）アッラーは、あなたがた（の負担）を軽くするよう望まれる。人間は（生れ付き）弱いものに創られている。

29.信仰する者よ、あなたがたの財産を、不正にあなたがたの間で浪費してはならない。だがお粟いの善意による、商売上の場合には別である。またあなたがた自身を、殺し（たり害し）てはならない。誠にアッラーはあなたがたに慈悲深くあられる。

30.もし敵意や悪意でこれをする者あれば、やがてわれは、かれらを業火に投げ込むであろう。それはアッラーにとって、非常に易しいことである。

31.だがあなたがたが、禁じられた大罪を避けるならば、われはあなたがたの罪過を消滅させ、栄誉ある門に入らせるであろう。

32.アッラーがあなたがたのある者に、他よりも多く与えたものを、羨んではならない。男たちは、その稼ぎに応じて分け前があり、女たちにも、その稼ぎに応じて分け前がある。アッラーの御恵・を願え。誠にアッラーは凡てのことをよく知っておられる。

33.各人のために、われはその父母と近親が残すものの相続者を決めた。なおあなたがたの右手が約束した者にも、その分け前を与えなさい。本当にアッラーは凡てのことの立証者であられる。

34.男は女の擁護者（家長）である。それはアッラーが、一方を他よりも強くなされ、かれらが自分の財産から（扶養するため）、経費を出すためである。それで貞節な女は従順に、アッラーの守護の下に（夫の）不巧中を守る。あなたがたが、不忠実、不行跡の心配のある女たちには諭し、それでもだめならこれを臥所に置き去りにし、それでも効きめがなければこれを打て。それで言うことを聞くようならばかの女に対して（それ以上の）ことをしてはならない。本当にアッラーは極めて高く偉大であられる。

35.もしあなたがたが、両人の破局を恐れるならば、男の一族から一人の調停者を、また女の一族からも一人の調停者をあげなさい。両人がもし和解を望むならば、アッラーは両人の間を融和されよう。本当にアッラーは、全知にして何ごとにも通暁しておられる。

36.アッラーに仕えなさい。何ものをもかれに併置してはならない。父母に懇切を尽くし、また近親や孤児、貧者や血縁のある隣人、血縁のない隣人、道づれの仲間や旅行者、およびあなたが

たの右手が所有する者（に規切であれ）。アッラーは高慢な者、うぬばれる者を御好・になられない。

37.かれらは吝嗇な者たちで、人びとにも吝嗇を勧め、アッラーがかれらに与えられた恩恵を隠すためにわが信仰を拒む者のためには、恥ずべき懲罰を準備しておいた。

38.かれらは人びとに見せびらかすために、その財産を施し、アッラーも、最後の（審判の）日をも信しない。誰にしる悪魔を仲間とする者は、何と忌まわしい仲間をもったことよ。

39.かれらが仮令アッラーと最後の日を信じて、アッラーがかれらに与えたものから施しても、かれらにとり何の負担になろうか。アッラーはかれらをよく知っておられる。

40.誠にアッラーは、敏塵の重さ程も間違えられない。もし一善があれば、かれはこれを倍加なされ、またかれの御許から偉大な報奨を与えられよう。

41.われが、それぞれのウンマから一人の証人を連れてくる時、またあなた（ムハンマド）を、かれらの悪に対する証人とする時は、どんな（有様）であろうか。

42.その日、信仰を拒否して使徒に従わなかった者たちは、大地がかれらと共に、平らになって消されるよう願うことであろう。かれらは、何一つアッラーに隠しおおせないであろう。

43.信仰する者よ、あなたがが酔った時は、自分の言うことが理解出来るようになるまで、礼拝に近付いてはならない。また大汚の時も、旅路にある者を除き、全身を沐浴した後でなければならぬ。またもしあなたがたが病にかかるか旅行中であり、または誰か廁から出るか、あるいはあなたがたが女と交わって、水を見つけれない場合は、清い上に触れ、あなたがたの顔と両手をなでなさい。本当にアッラーは、罪障を消滅なされる御方、度々御許しなされる御方である。

44.あなたは見ないか、啓典の一部を与えられた者が、自分に迷誤を購い、あなたがたをも道から迷わせようとするのを。

45.アッラーはあなたがたの敵を、知り尽くされる。アッラーはぬかりなく愛護され援助なされる。

46.ユダヤ人のある者は（啓典の）字句の位置を変えて、「わたしたちは聞いた、だが従わない。」と言い、また「あなたがたは、聞かされないことを聞け。」またはその舌をゆがめて〔ライナー〕と言い、また宗教を中傷する。だがかれらがもし、「わたしたちは聞きます、そして従います。」、「謹聴せよ。」、また〔ウンズルナー〕と言うならば、かれらのために最もよく、また最も正しい。だがアッラーはかれらが不信心なために、見はなされた。それでも僅かのをしか信仰しない。

47.啓典の民よ、あなたがたが持っているもの（ムーサーの律法）を確証するために、（いま）われが下したもの（クルアーン）を信じなさい。われがあなたがたの顔を塗りつぶして、それを後ろの方にねじ回わされない前に（信じなさい）。また且つて安息日を破った者たちが、見限られたように見はなされない前に（信じなさい）。アッラーの命令は、必ず成し遂げられるのである。

48.本当にアッラーは、（何ものをも）かれに配することを赦されない。それ以外のことに就いては、御心に適う者を赦される。アッラーに（何ものかを）配する者は、まさに大罪を犯す者である。

49.あなたは、あの自ら清浄だとする者を知らないのか。いや、アッラーは御心に適う者を清め、かれは少しも不当に扱われない。

50.見なさい。かれらがアッラーに就いて、如何に偽りを創出しているかを。このこと自体、十分に明白な罪である。

51.あなたはかの啓典の一部を授かった者を思わないのか、かれらはジブトとターゲットを信じ、不信心な者を指して、「これらの者は、信者たちよりも正しい道に導かれている。」と言う。

52.（啓典の一部を与えられていながら不屈なことをする）これらの者は、アッラーの怒りを被むる者である。アッラーが見はなした者を誰一人援助しはしないであろう。

53.かれらは、大権の一端をあずかれるとでも思っているのか。仮令そうであっても、かれらは少しも人びとに与えることをしないでであろう。

54.それともかれらは、アッラーが恩恵を施されたために、その人びと（アラビア人）を妬むのか。まさにわれはイブラーヒームの子孫に啓典と英知とを授け、且つ偉大な王国を与えた。

55.だがかれらのある者はこれを信じたが、ある者はそれから背き去った。地獄は燃え盛る火として十分であろう。

56.本当にわが印を信じない者は、やがて火獄に投げ込まれよう。かれらの皮膚が焼け尽きる度に、われは他の皮膚でこれに替え、かれらに（飽くまで）懲罰を味わわせるであろう。誠にアッラーは偉力ならびなく英明であられる。

57.だが信仰して善い行いに励む者には、われは川が下を流れる樂園に入らせ、永遠にその中に住まわせよう。そこでかれらは、純潔な配偶を持ち、われは涼しい影にかれらを入らせるであろう。

58.誠にアッラーは、あなたがたが信託されたものを、元の所有者に返還することを命じられる。またあなたがたが人の間を裁く時は、公正に裁くことを命じられる。アッラーがあなたがたに訓戒されることは、何と善美なことよ。誠にアッラーは全てを聴き凡てのことに通暁なされる。

59.あなたがた信仰する者よ、アッラーに従いなさい、また使徒とあなたがたの中の権能をもつ者に従え。あなたがたは何事に就いても異論があれば、アッラーと終末の日を信じるのなら、これをアッラーと使徒に委ねなさい。それは最も良い、最も妥当な決定である。

60.あなたは、かのあなたに下されたもの、およびあなた以前に下されたものを信じると、ただ口走っている者たちを見なかったのか。かれらは邪神を拒むよう、命じられているにも拘らず、その（争議の）裁定のため、栗いに邪神に頼ろうと望んでいる。また悪魔は、かれらが（正道から）遠く迷い去るように導こうと望んでいる。

- 61.かれらに向かって「アッラーが下されたもの、また使徒のもとに来なさい。」と告げられた時、にせ信者たちは、嫌って、きつとあなたから背き去るのを見るであろう。
- 62.ところがかれらが自ら手を下したことのために、災難にあった時はどうであろう。その時かれらはあなたの許に来て、アッラーに誓けて、「わたしたちは、只好意と調停とを望んだだけだ。」と誓って言うであろう。
- 63.これらの者の心の中に抱くことを、アッラーは知っておられる。だからこれを意にとめず、かれらに訓戒し、魂に徹する言葉で呼びかけなさい。
- 64.われが使徒を遣わしたのは、唯アッラーの御許しの許に服従、帰依させるためである。もしかれらが間違った時あなたの許に来て、アッラーの御容赦を願い、使徒が、かれらのために御赦しを祈るならば、かれらはアッラーが、度々許される御方、慈悲深い御方であられることが分かるであろう。
- 65.だがあなたがたの主の誓けてそうではないのである。かれらは信しないであろう。かれらの間の紛争に就いてあなたの裁定を仰ぎ、あなたの判決したことに、かれら自身不満を感じず、心から納得して信服するまでは。
- 66.仮令われがかれらに「身命を捧げなさい。」、または、「家から出て行け。」と命じても、かれらの中少数の者の外は、そうしなかったであろう。もしかれらが、勧められるように行つたならば、きつとかれらのためにも善いことであり、もっと（信仰も）強まったのだが。
- 67.その時は、わが許から必ず偉大な報奨を授け、
- 68.われは正しい道に、かれらを必ず導ぐのである。
- 69.アッラーと使徒に従う者は、アッラーが恩恵を施された預言者たち、誠実な者たち、殉教者たちと正義の人々の仲間となる。これらは何と立派な仲間であることよ。
- 70.これはアッラーからの恩恵である。アッラーは凡てのことにぬかりなく通暁しておられる。
- 71.信仰する者よ、あなたがたは慎重に警戒しなさい。あるいは分隊で進・、あるいは全隊で出動しなさい。
- 72.あなたがたの中には、確かに遅れをとる者がある。もし艱難があなたがたに下れば、「わたしたちが、かれらと一緒に殉教しなかったのは、まさにアッラーの御恵・だ。」と言う。
- 73.だがアッラーからの恩恵が、あなたがたに下る時は、まるであなたがたとかれらとの間に全く友情もなかったかのように、かれらはきつと、「ああ、わたしがかれらと一緒にあつたなら、わたしは大成功をなし遂げたのだが。」と言う。
- 74.だから来世のために、現世の生活を捨てる者に、アッラーの道のために戦わせなさい。アッラーの道のために戦った者には、殺害された者でもまた勝利を得た者でも、われは必ず偉大な報奨を与えるであろう。

75.あなたがたはどうして、アッラーの道のために戦わないのか。また弱い男や女や子供たちのためにも。かれらは（祈って）言う。「主よ、この不義をなす（マッカの）住民の町から、わたしたちを救い出して下さい。そしてわたしたちに、あなたの御許から一人の保護者を立てて下さい。またわたしたちに、あなたの御許から一人の援助者を立てて下さい。」

76.信仰する者はアッラーの道のために戦い、信仰しない者は、ターダートの道のために戦う。さあ、悪魔の味方に対して戦え。本当に悪魔の策謀は弱いものである。

77.「あなたがたの手を控えなさい。そして礼拝の務めを守り、定め喜捨をしなさい。」と告げられた者を、あなたは見なかったのか。いざかれらに戦闘が命じられると、見よ。かれらの中の一派は、丁度アッラーを恐れるように、人間を恐れ始める。いやもつとひどく恐れる。そして言う。「主よ。あなたは、何故わたしたちに戦闘を命じられますか。何故しばらくの間、わたしたちを猶予なさいませんか。」言ってやるがいい。「現世の歓楽は些細なものである。来世こそは、（アッラーを）畏れる者にとっては最も優れている。あなたがたは、少しも不当に扱われないのである。」

78.あなたがたが何所にいても、仮令堅固な高樓にいても、死は必ずやって来る。かれらは幸運にあえば、「これはアッラーの御許からだ。」と言い、また災難にあえば、「これはあなた（ムハンマド）からだ。」と言う。言ってやるがいい。「一切はアッラーの御許からである。」一体この人たちはどうしたのであろうか。（どんな）言葉もほとんど理解しないのか。

79.あなたに訪れるどんな幸福も、アッラーからであり、あなたに起こるどんな災厄も、あなた自身からである。われはあなたを、人びとへの使徒として遣わした。本当にアッラーは証人として万全であられる。

80.使徒に従う者は、まさにアッラーに従う者である。誰でも背き去る者のために、われはあなたを見張り人として遣わしたのではない。

81.かれらは、「仰せに従います。」と言うが、一度あなたの前から立ち去ると、あなたが言ったのとは違ったことを夜もすがら策謀する。だがアッラーはかれらの終夜の策謀を記録なされる。だからあなたはかれらから遠ざかり、アッラーに御縋りしなさい。誠にアッラーは保護者として万全であられる。

82.かれらはクルアーンを、よく考えて・ないのであろうか。もしそれがアッラー以外のものから出たとすれば、かれらはその中にきつと多くの矛盾を見出すであろう。

83.かれらは（戦時に）優勢、劣勢の情報を得る度にそれを言いふらす。だが、もしそれを使徒、または権威を委ねられた者たちにただしたなら、（正しい）判断を求めた者はそれを知り得ただろうに。誠にアッラーの恩恵と慈悲が、あなたがたの上になかったならば、僅かの者の外、あなたがたはきつと悪魔に従ったであろう。

84.だからアッラーの道のために戦え。あなた（ムハンマド）は、自分に対してだけ、責めを負わされているのだ。信者たちを激励しなさい。おそらくアッラーは、信仰しない者たちの戦意を抑止されよう。アッラーの武勇はなにものよりも優れ、その罰もはるかに厳しいのである。

- 85.善い勧告で執り成す者には、それに相応する分け前があろう。また悪い勧告で執り成す者は、それに相応する重荷を負うであろう。アッラーは、凡てのことに御力を御持ちになられる。
- 86.あなたがたが挨拶された時は、更に丁重な挨拶をするか、または同様の挨拶を返せ。誠にアッラーは凡てのことを清算なされる。
- 87.アッラー、かれの外に神はないのである。かれは審判の日にあなたがたを集められる。それには、疑いの余地はない。誰の言葉が、アッラーよりも真実であろうか。
- 88.あなたがたは、偽信者たちのことで、どうして2派に分れたのか。アッラーはかれらの行いのために、かれらを（不信心に）転落させられたのではないか。あなたがたは、アッラーが迷わせられた者を導こうと望むのか。本当にアッラーが迷わせられた者には、決して道を見いだせないであろう。
- 89.かれらは自分が無信仰なように、あなたがたも無信仰になり、（かれらの）同類になることを望む。だからかれらがアッラーの道に移って来るまでは、かれらの中から（親しい）友を得てはならない。もしかれらが背をむけるならば、ところかまわずかれらを捕え、見付け次第かれらを殺せ。かれらの中から決して友や援助者を得てはならない。
- 90.だが、あなたがたと盟約した民に仲間入りした者、またはあなたがたとも自分の人びとも戦わないと、心に決めて、あなたのところへやって来る者は別である。もしアッラーの御心ならば、かれは、あなたがたよりもかれらを優勢になされ、あなたがたと戦うであろう。それで、もしかれらが身を引いて、あなたがたと戦わないで和平を申し出るならば、アッラーはかれらに対して（戦う）道を、あなたがたに与えられない。
- 91.外のある者は、あなたがたから安全を望み、また、自分の人びとからも安全であり度いと望むのを、あなたがたは見るであろう。かれらは試みにあう度に、それら（の誘惑）に陥り転落する。それでかれらがもし退かず、あなたがたに和平も求めず、また手を納めないなら、ところかまわずかれらを捕え、見付け次第かれらを殺せ。これらの者に対しては、われはあなたがたに、明白な権能を授ける。
- 92.信者は信者を殺害してはならない。過失の場合は別であるにしても。過失で信者を殺した者は、1名の信者の奴隷を解放し、且つ（被害者の）家族に対し血の代償を支払え、だがかれらが見逃す場合は別である。もし被害者があなたがたと敵対関係にある民に属し、信者である場合は、1名の信者の奴隷を解放すればよい。またもしかれが、あなたがたと同盟している民に属する場合は、その家族に血の代償を支払ったうえ、1名の信者の奴隷を解放しなければならない。資力のない者は、アッラーからの罪の償いに続けて2ヶ月間の斎戒をしなさい。アッラーは全知にして英明であられる。
- 93.だが信者を故意に殺害した者は、その応報は地獄で、かれは永遠にその中に住むであろう。アッラーは怒ってかれを見はなされ、厳しい懲罰を備えられる。
- 94.信仰する者よ、あなたがたがアッラーの道のために、出勤するときは、（慎重に）事態を見きわめ、あなたがたに挨拶する者に向かって、「あなたがたは信者ではない。」と言ってはなら

ない。あなたがたは現世の生活上の消えやすい財を求め、アッラーの御許には、夥しい戦利品がある。以前あなたがたもそうであったが、アッラーは御恵・を与えられる。だから（慎重に）行動しなさい。誠にアッラーは、あなたがたの行くことを熟知なされる。

95.信者の中、これと言った支障もないのに（家に）座っている者と、財産と生命を捧げて、アッラーの道のために奮闘する者とは同じではない。アッラーは、財産と生命を捧げて奮闘する者に、座っている者より高い位階を授けられる。アッラーは（信者の）それぞれに、良い報奨を約束なされる。だがアッラーは奮闘する者には座っている者よりも偉大な報奨を授けられる。

96.位階も御赦しも慈悲も。誠にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

97.自分自身を損っているところを天使に召された人々に（天使は）言う。「あなたがたはどうしていたのか。」かれらは（答えて）言う。「わたしたちは地上で弱く、痛めつけられていました。」その時かれら（天使）は言う。「アッラーの国土は広大ではなかったのか、あなたがたはそこに移り住めたではないか。」これらの者の住まいは地獄であろう。何と悪い帰り所であることよ。

98.只（本当に）弱かった男女と子供たちは別である。かれらは（自ら避難する）手段を見出すことも出来ず、また道へも導かれなかった。

99.これらの者には、あるいはアッラーの御許しがあろう。アッラーは、罪障を消滅なされる御方、度々御赦しなされる御方である。

100.アッラーの道のために移住する者は、地上に広い避難所と、豊かさ（居住地）のあることを知るであろう。凡そアッラーとその使徒の許に、家郷から移り住・、その後（例え）死に捕えられても、そのものの報奨に就いて必ずアッラーが請け合われる。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

101.あなたがたが地上を旅する時、もし信仰のない者たちに、害を加えられる恐れのある時は、礼拝を短縮しても罪はない。誠に不信者は、あなたがたの公然の敵である。

102.あなたがかれら（信者）の中にあつて、かれらと礼拝に立つ時は、（まず）かれらの一部をあなたと共に（礼拝に）立たせそしてかれらに武器を持たせなさい。かれらがサジダ（して第1のラカート「礼拝の単位」）を終えたならば、あなたがたの後ろに行かせ、それからまだ礼拝しない他の一団に、あなたと共に礼拝（の第2のラカート）をさせ（て礼拝を終わり）、かれらに武器を持たせ警戒させなさい。不信者たちは、あなたがたが武器や行李をゆるがせにする隙に乘じ、一挙に飛びかかって襲おうと望んでいる。ただし雨にあい、またはあなたがたが病気の時、自分の武器をおいても罪はない。だが用心の上に用心しなさい。アッラーは不信者のために恥ずべき懲罰を備えられる。

103.あなたがたは礼拝を終えたならば、立ったまま、また座ったまま、または横になったまま、アッラーを唱念〔ズィクル〕し、安全になった時は、（正しく）礼拝の務めを守れ。本当に礼拝には、信者に対し定められた時刻の掟がある。

- 104.あなたがたは、敵を追うことに弱音を吐いてはならない。あなたがたが苦難に陥った時は、かれらもまた同じように苦しんでいる。しかもあなたがたは、アッラーからの希望が持てるが、かれらにはない。アッラーは全知にして英明であられる。
- 105.誠にわれは、真理をもってあなたに啓典を下した。これはアッラーが示されたところによって、あなたが人びとの間を裁くためである。あなたは背信者を弁護してはならない。
- 106.アッラーの御赦しを請いなさい。アッラーは寛容にして悲慈深くあられる。
- 107.自らの魂を歎く者を弁護してはならない。アッラーは背信して罪を犯す者を御好・になられない。
- 108.かれらは人に（その罪を）隠せるが、アッラーに隠しだてすることは出来ない。夜中にかれの御喜びになれないことを、策謀する時でも、かれはかれらと共においでになられる。誠にアッラーは、かれらの行う一切のことを御存知であられる。
- 109.これ、あなたがたは現世の生活の上でかれらのために弁護している。だが誰が、復活の日に、かれらのためアッラーに弁護出来よう。また誰が、かれらの事の保護者となろうか。
- 110.悪事を行い、また自分の魂を積ちても、直ぐにアッラーの御赦しを請うならば、アッラーが寛容で慈悲深くあられることが分るであろう。
- 111.罪を稼ぐ者は、自分の身にそれを稼ぐだけ。アッラーは全知にして英明な御方であられる。
- 112.過失または罪を犯して、これを潔白な者のせいにする者は、虚偽と明白な罪を負う者である。
- 113.もしあなたに対する、アッラーの恩恵と慈悲がなかったならば、かれらの一派は、あなたを迷わそうと企んだであろう。だがかれらは只自分自身を迷わせただけで、少しもあなたを損うことは出来ない。アッラーは啓典と英知とを、あなたに下し、あなたが全く知らなかったことを教えられた。あなたに対するアッラーの恩恵こそ偉大である。
- 114.かれらの秘密の会議の多くは、無益なことである。ただし施しや善行を勧め、あるいは人びとの間を執り成すのは別である。アッラーの御喜びを求めてこれを行う者には、われはやがて、偉大な報奨を与えるであろう。
- 115.導きが明らかにされたにも拘らず、使徒に背き、信者の道ではない道に従う者には、かれが転向したいままに任せ、結局かれは地獄に入るであろう。何と悪い帰り所であることよ。
- 116.誠にアッラーは、（何ものをも）かれに配することを御赦しになれない。だがその外のことは、御心に適えば御赦し下される。凡そアッラーに同位の者をあげる者は、確かに遠く（正道から）迷い去った者である。
- 117.かれらはかれを差し置いて、女の像に祈っている。それは反逆した悪魔に祈っているにすぎない。

- 118.アッラーはかれ（思魔）を見限られた。だがかれは言った。「わたしはあなたのしもべの中で、相当の部分の者をきつと連れさるでしょう。
- 119.またわたしはきつとかれらを迷わせて、その虚しい欲望に耽らせ、またかれらに命じて家畜の耳を切り、アッラーの創造を变形させます。」誰でもアッラーの外に悪魔を友とする者は、必ず明らかな損失を被るのである。
- 120.（悪魔は）かれらと約束を結び、虚しい欲望に耽らせるであろう。だが悪魔の約束は、欺瞞に過ぎない。
- 121.かれらの住まいは地獄である。かれらはそれから逃れる道を、見いだせない。
- 122.だが信仰して善い行いに励む者は、われはやがて、川が下を流れる楽園に入らせ、永遠にその中に住ませよう。アッラーの約束は真実である。誰の言葉がアッラーのそれよりも真実であろうか。
- 123.これはあなたがたの妄想によるものではなく、また啓典の民の妄想でもない。誰でも悪事を行う者は、その報いを受けよう。アッラーの外には、愛護し援助する者も見いだせない。
- 124.誰でも、正しい行いに励む者は、男でも女でも信仰に堅固な者。これらは楽園に入り、少しも不当に扱われない。
- 125.アッラーに真心こめて服従、帰依し、善い行いに励み、イブラーヒームの純正な信仰に従う者以上に優れた者があろうか。アッラーは、イブラーヒームを親しい友にされたのである。
- 126.凡そ天にあり、地にある凡てのものは、アッラーの有であり、アッラーば凡ての事を、包含なされる。
- 127.かれらは女のことで、あなたに訓示を求める。言ってやるがいい。「アッラーは、かの女らに関しあなたがたに告げられる。また啓典の中でも、あなたがたが、所定のものを与えず、娶ろうと欲する女の孤児に関し、また哀れな子供らに関し、更にあなたがたが孤児を公正に待遇しなければならぬことに関し、あなたに読誦されたこと（を思え）。あなたがたが行うどんな善いことも、アッラーは深くそれを知っておられる。」
- 128.もし女が、その夫から虐待され、忌避される心配があるとき、両人の間を、和解させるのは罪ではない。和解は最もよいことである。だが人間の魂は、貪欲になりがちである。もしあなたがたが善行をし、主を畏れるならば、誠にアッラーは、あなたがたの行うことを熟知なされる。
- 129.あなたがたは妻たちに対して公平にしようとしても、到底出来ないであろう。あなたがたは（そう）望んでも。偏愛に傾き、妻の一人をあいまいに放って置いてはならない。あなたがたが融和し、主を畏れるのならば、誠にアッラーは、度々赦される御方、慈悲深い御方であられる。
- 130.仮令かれらが離別しても、アッラーは恩沢を与えられ、両人を仕合わせになされる。アッラーは厚施にして英明な御方であられる。

131.天にあり、また地にある凡てのものは、アッラーの有である。われはあなたがた以前に啓典を与えられた者、またあなたがた（ムスリム）にも、「アッラーを畏れよ。」と命じた。仮令あなたがたが信じなくても、天にあり地にある凡てのものは、アッラーの有である。アッラーは、満ち足りておられる方、讃美すべき方であられる。

132.天にあり、地にある凡てのものは、アッラーの有である。アッラーは凡ての事をぬかりなく管理される方であられる。

133.もしかれが御望・になれば、あなたがたを滅ぼし、外の民を招いてこられよう。誠にアッラーは、それをする御力を持っておられる。

134.現世の報奨を欲する者もあろうが、アッラーの御許には、現世と来世の報奨がある。アッラーは全聴にして凡てに通曉なされる。

135.あなたがた信仰する者よ、証言にあたってアッラーのため公正を堅持しなさい。仮令あなたがた自身のため、または両親や近親のため（に不利な場合）でも、また富者でも、貧者であっても（公正であれ）。アッラーは（あなたがたよりも）双方にもっと近いのである。だから私欲に従って、（公正から）逸れてはならない。あなたがたが仮令（証言を）曲げ、または背いても、アッラーはあなたがたの行うことを熟知なされる。

136.あなたがた信仰する者よ、アッラーとかれの使徒を信じなさい。また使徒に下された啓典と、以前に下された啓典を信じなさい。凡そアッラーを信じないで、天使たちと諸啓典とかれの使徒たち、そして終末の日を信じない者は、確かに遠く迷い去った者である。

137.一度信仰した者が、やがて不信心になり、それから（再度）信仰してまた背信し、その不信心を増長させる者があるが、アッラーはかれらを決して赦されないし、かれらを（正しい）道に導かれることはない。

138.偽信者に告げなさい、かれらに痛烈な懲罰があることを。

139.信者たちを差し置いて、不信心の者を（親密な）友とする者がある。これらの者は、かれらの中で榮譽を求めるのか。いや、凡ての権勢はアッラーに属する。

140.啓典の中で、あなたがたに確かに訓戒した。もしアッラーの印が拒否され、または嘲笑されるのをあなたがたが耳にするならば、かれらが外の話に移るまでかれらと同席してはならない。あなたがたが（同席）したならば、かれらと同類になる。本当にアッラーは偽信者と不信心の者を、凡て地獄の中に集められる。

141.（かれらは）あなたがた（の戦果）を待っていた者たちである。アッラー（の助け）によってあなたがたが勝利を得た時は、（あなたがたに向かって）「わたしたちも、あなたがたと一緒だったではないか。」と言う。もしまた不信心者に有利な時は、（かれらに向かって）「わたしたちは、あなたがたを優勢にしてやったではないか。わたしたちは信者（ムスリム）からあなたがたを守ってやったではないか。」と言う。アッラーは審判の日に、あなたがたを裁かれる。アッラーは信者たちに対して、不信心者たちの（成功する）道を、決して与えられない。

- 142.誠に偽信者は、アッラーを欺むこうとするが、かれはかえってかれらを欺むかれる。かれらが礼拝に立つ時は、物（囊？）げに立ち、人に見せるため、ほとんどアッラーを念じない。
- 143.あれやこれやと心が動いて、こちらへでもなくまたあちらへでもない。本当にアッラーが迷うに任せられる者には、あなたはかれのために決して道を見いだしてやれない。
- 144.あなたがた信仰する者よ、信者の外に不信心な者を（親しい）友としてはならない。あなたがた自ら（不利な）、はっきりとした証拠を、アッラーに差し出すことを望むのか。
- 145.本当に偽信者たちは、火獄の最下の奈落に（陥ろう）。あなたはかれらのために、援助する者を見いだせない。
- 146.だが悔悟して（その身を）修め、アッラーにしっかりと縋りきって、アッラーに信心の誠を尽くす者は別である。これらは信者たちと共にいる者である。アッラーは、やがて信者に偉大な報奨を与えるであろう。
- 147.もしあなたがたが感謝して信仰するならば、アッラーはどのようにしてあなたがたを処罰されようか。アッラーは嘉し深く知っておられる方である。
- 148.アッラーは悪い言葉を、大声で叫ぶのを喜ばれない。だが不当な目にあった者は別である。アッラーは全聴にして全知であられる。
- 149.あなたがたが善い行いを公然としても、そっと隠れてしても、または被った害を許してやっても、本当にアッラーは寛容にして全能な方であられる。
- 150.アッラーとかれの使徒たちを信じないで、アッラーとかれの使徒たちの間を、分けようと欲して、「わたしたちはあるものを信じるが、あるものは信じない。」と言い、その中間に、一つの路を得ようと欲する者がある。
- 151.これらの者こそは、本当に不信者である。われは不信者のために恥ずべき懲罰を備えている。
- 152.だがアッラーとその使徒たちを信じ、かれらの間の誰にも差別をしない者には、われはやがて報奨を与えよう。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。
- 153.啓典の民はあなたがたが天からかれらに啓典を（齋？）すことを求める。かれらは以前に、ムーサーに対しそれよりも大きいことを求めて、「わたしたちに、アッラーを目の当たり見せてくれ。」と言った。そのような不正のために、かれらは落雷にうたれて死んだ。それから、明白な種々の印がかれらに下った後、かれらは仔牛を崇拜した。それでもわれはこれを許して明確な権威をムーサーに授けた。
- 154.それからかれらと約束するに当たり、（シナイ）山をかれの頭上に持ち上げ、「謙虚にこの門に入れ。」とかれらに告げ、また「安息日の戒めに背いてはならない。」と言って、われはかたい約束をかれらからとった。

155.それなのに（主の不興を被って）かれらはその約束を破り、アッラーの印を信じないで、無法にも預言者を殺害し、「わたしたちの心は、覆われている。」と言った。そうではない。かれらが不信心なために、アッラーはその心を封じられた。だからかれらは、ほとんど何も信じない。

156.かれらは不信心のため、またマルヤムに対する激しい中傷の言葉のために、

157.「わたしたちはアッラーの使徒、マルヤムの子マスィーフ（メシア）、イーサーを殺したぞ」という言葉のために（心を封じられた）。だがかれらがかれ（イーサー）を殺したのでもなく、またかれを十字架にかけたのでもない。只かれらにそう見えたまでである。本当にこのことに就いて議論する者は、それに疑問を抱いている。かれらはそれに就いて（確かな）知識はなく、只臆測するだけである。だが実際にはかれを殺したのでもなく、

158.いや、アッラーはかれを、御側に召されたのである。アッラーは偉力ならびなく英明であられる。

159.啓典の民の中、かれの死ぬ前にしっかりかれを信じる者は一人もいなかった。審判の日において、かれはかれらにとって（不利な）証人となろう。

160.あるユダヤ人の不義な行いのために、（もともと）合法であったよい（食べ）ものを、われはかれらに禁じた。（これは）かれらが多くの者を、アッラーの道から妨げたためであり、

161.禁じられてもいた利息（高利）をとり、不正に、人の財産を貪ったためである。われはかれらの中の不信心な者のために、痛ましい懲罰を準備している。

162.ただしかれらの中、確実な根拠のある知識を持つ者、と信者たちは、あなたに下されたものと、あなた以前に下されたものを信じ、礼拝の務めを守り、定め喜捨をして、アッラーと終末の日を信じる。これらの者には、われはやがて偉大な報奨を与えるであろう。

163.本当にわれは、ヌーフやかれ以後の預言者たちに啓示したように、あなたに啓示した。われはまたイブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアコーブおよび諸支族に（啓示し）、またイーサー、イスハーク、ユース、ハールーンならびにスライマーンにも（啓示した）。またわれはダーワードに詩篇を授けた。

164.ある使徒たちに就いては、先にわれはあなたに告げたが、未だあなたに告げていない使徒たちもいる。そしてムーサーには、親しくアッラーは語りかけられた。

165.使徒たちに吉報と警告を（椅?）せたのは、かれらの（遺わされた）後、人々に、アッラーに対する論争がないようにするためである。アッラーは偉力ならびなく英明であられる。

166.だがアッラーは、あなたに下されたもの（啓示）がかれの御知識によって下されたことを立証なされる。天使たちもまた立証する。本当にアッラーは、抜かりない立証者であられる。

167.信仰を拒否して、（人びとを）アッラーの道から遠ざける者たちは、確かに遠く迷い去った者である。

168.アッラーは信仰を拒否して不義を行う者たちを決して赦されず、また（正しい）道に導かれることもな

169.地獄への道を行く外になく、永遠にその中に住むであろう。これはアッラーには、非常に容易なことである。

170.人びとよ、使徒は確かに主からの真理をもってあなたがたの許に来た。だからあなたがたは信じなさい。それがあなたがたのために最も良い。例えあなたがたが信じなくても、本当に天と地の凡てのものは、アッラーの有である。アッラーは全知にして英明であられる。

171.啓典の民よ、宗教のことに就いて法を越えてはならない。またアッラーに就いて真実以外を語ってはならない。マルヤムの子マスィーフ・イーサーは、只アッラーの使徒である。マルヤムに授けられたかれの御言葉であり、かれからの霊である。だからアッラーとその使徒たちを信じなさい。「三（位）」などと言ってはならない。止めなさい。それがあなたがたのためになる。誠にアッラーは唯一の神であられる。かれに讃えあれ。かれに、何で子があろう。天にあり、地にある凡てのものは、アッラーの有である。管理者としてアッラーは万全であられる。

172.マスィーフはアッラーのしもべであることを決して軽んじたりはしない。また（アッラーの）そばにいる天使たちもしない。かれに仕えることを軽んじ、高慢である者、これらすべての者をかれの御許に集められる。

173.だが信仰して善い行いに励む者には、かれは十分の報奨を与え、なおその恩恵を増して下される。だが軽んじて高慢な者には、かれは懲罰を科され、アッラーの外にはどんな守護も援助も見いだすことは出来ない。

174.人びとよ、主から確証が既にあなたがたに(西?)されたのである。われは明らかな光明をあなたがたに下したのである。

175.だからアッラーを信仰し、しっかりかれに縋る者は、やがてかれからの慈悲と恩恵に浴させていただき、正しい道で、御許に導いていただけよう。

176.かれらは合法的な判定につき、あなたに問うであろう。言ってやるがいい。「アッラーは、あなたがたに父母も子供もない場合、こう判定なされる。男が死んでもし子がなく、唯1人の姉か妹がある場合は、かの女は遺産の半分を継ぐ。また女が死んでもし子のない場合は、かれ（兄弟）がかの女（の遺産）を相続する。もし2人の姉妹があれば、遺産の3分の2を2人で相続する。もしまた、兄弟と姉妹があれば、男は女の2人分の分け前を得る。アッラーは誤りがないよう、あなたがたに解明なされる。アッラーは凡てのことを知り尽くされる。」

SURA 5.食卓章〔アル・マーイダ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。